

芸術科（美術 I） 学習指導案

学校名 石川県立金沢辰巳丘高等学校
 指導者 職・氏名 教諭

指導日時・教室 平成20年 4月21日（月）3限目・美術室
 対象生徒・集団 普通科 1年生 17人
 科目名 美術 I （単位数 2）
 使用教科書 高校美術1 （出版社名 日本文教出版）

1 題材名 A表現（1）絵画・彫刻
 「スプーンに映し出された自画像」 ～ 年代別のピカソの自画像を鑑賞して ～

2 題材の目標

ピカソの自画像の鑑賞を通して、作者の表現意図や心情を読み取り、自画像の制作に関心と意欲をもち、スプーンに映し出された自分の顔を深く観察し、造形的な形態のおもしろさを見つけるとともに、自己の内面を見つめ、自分の特徴や心情を創造的に表現する。また、作品鑑賞では自他の表現の違いを見つけ、よさを認め、自画像にこめられた思いを共有し合い、一人一人の個性についての考察を深める。

- ・ ピカソの自画像の鑑賞を通して、作者の表現意図や心情を読み取り、自画像の多様な表現方法に関心と意欲をもち、スプーンに映し出された自分の顔の中から造形的なおもしろさを感じ取り、自己の内面を見つめながら意欲的に表現に取り組もうとする。 【関心・意欲・態度】
- ・ 対象を深く観察し、造形的な形態のおもしろさを見つけ、特徴や心情を表す形や色彩を豊かに発想し構想する。 【芸術的な感受や表現の工夫】
- ・ スケッチをもとにして、特徴や心情を効果的に表す配色を考え、意図に応じて創造的に表現する。 【創造的な技能】
- ・ 自他の表現の違いを見つけ、よさや美しさを感じ取り、自画像にこめられた思いを理解し、一人一人の個性についての考察を深める。 【鑑賞の能力】

3 指導に当たって

(1) 生徒の状況

本校の選択美術の1年生の現状は、素直で明るい生徒が多く、美術の授業では、題材の導入時から制作まで真面目な態度で課題に対して取り組んでいる。しかし、一定の段階まで制作が進んだり、制作の目標を見失ったりすると他の生徒の状況を気にしたりするなど集中力に欠ける面がある。丁寧に個別の支援を繰り返し行いながら、生徒一人一人の能力や適性に合ったきめ細かな指導が必要である。

(2) 指導方針・方法

ピカソの自画像の鑑賞を通して、作者の表現意図や心情を読み取らせ、自画像の制作に関心をもたせたい。スプーンに映し出された自分の顔を深く観察し、造形的な形態のおもしろさを見つけさせるとともに、自分の特徴や心情を創造的に表現することを通して、自己の内面を深く見つめさせたい。また、作品鑑賞では自他の表現の違いを見つけさせ、表現の工夫やよさを認め合ったり、自画像にこめられた思いを共有し合ったりすることで、一人一人の個性についての考察を深めさせたい。

(3) 教材選定の理由

「スプーンに映し出された自画像」は、絵画の基礎的な学習を深める上で、対象の中から造形的なおもしろさを見つけたり、特徴や心情を表現したりする題材としては適切な題材と考えられる。普段、自分の顔は鏡を通して見慣れてはいるが、写生対象として特徴や細部の形などをよく観察することはなく、新たなモチーフとして取り上げると、やや照れや気恥ずかしさはあるものの、新鮮な気持ちで取り組むことができる。また、スプーンに映し出される自分の顔を深く観察し、その造形性に興味を持ち、自己の内面を見つめ、自分の特徴や心情を創造的に表現することを通して、異なる視点でのものの見方やとらえ方、考え方を身に付けさせ、表現活動への意欲を喚起したい。

4 題材の指導計画 (総時数 11 時間)

第一次	ピカソの「自画像」作品の鑑賞	(1 時間)
1時	ピカソの「自画像」作品を鑑賞し、自画像の制作に関心と意欲をもつ。・・・本時	
第二次	スプーンに映し出された自分をスケッチ	(2 時間)
第三次	スケッチをボードに転写	(1 時間)
第四次	区切り線を下絵に描く、デザインボードに着色	(6 時間)
第五次	小グループによる合評会と全体発表	(1 時間)

6 本時の指導と評価の計画 (第一次 第1時)

- (1) 題目 ピカソの「自画像」作品の鑑賞
- (2) 本時のねらい
 - ・ピカソの自画像の鑑賞を通して、作者の表現意図や心情を読み取り、自画像の制作に関心を持ち、参考作品を鑑賞し、制作への意欲をもつ。 【関心・意欲・態度】
- (3) 準備、資料等
 - パソコン、プロジェクター、スクリーン、プレゼンテーションソフトによる鑑賞資料、ワークシート
- (4) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
導入 5分	これまでの学習経験を振り返る 学習のねらいと内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ピカソについて、これまで学習したことや知っていることを発表する。 ・ピカソの作品と参考作品の鑑賞から自画像の制作への意欲をもつ。 	○ピカソの代表作「ゲルニカ」を提示して生徒の記憶を喚起する。	
展開 35分	ピカソの作品鑑賞 参考作品の鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトによる鑑賞資料でピカソの代表作品と自画像作品を鑑賞する。 □ 各時代の代表作 <ul style="list-style-type: none"> ●その時代の社会背景 ●その時代の芸術思想 □ 時代別の「自画像」 <ul style="list-style-type: none"> ●表現方法の特徴と制作意図 □ ピカソの言葉 『もしも真実が一つなら、誰が同じテーマで百の絵を描こうか』 ・ピカソの年代別「自画像」作品を振り返りながら、生徒作品を鑑賞する。 □ 美術コース生徒作品 □ 選択美術生徒作品 	<ul style="list-style-type: none"> ○時代ごとの作品の変化を生徒と確認しながら鑑賞を進める。 ○ピカソが生きた時代背景も確認しながら進め、知識を伝達することだけにならないよう、作品の特徴などを生徒に読み取らせるようにする。 ○作品から感じ取ったことを確認させながら自画像作品の鑑賞を進める ○ピカソの言葉から、ピカソの造形活動の本質と訴えようとしたことは何かを問いかけ、作品制作にとって何が大切なのかを考えさせる。 ○生徒作品から作者の思いや工夫された点を問いかけ、確認しながら鑑賞を進める。 	ピカソの自画像の鑑賞を通して、作者の表現意図や心情を読み取り、自画像の制作に関心をもつ。 【関心・意欲・態度】 (行動観察)
まとめ 10分	学習の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞の感想と自画像の制作への意欲をワークシートに記述する。 ・次時の予告を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ○創造的な表現のために何が大切なのかを考えながら、自分の「自画像」について考えさせる。 ○次時は、鉛筆でスケッチすることを伝える。 	参考作品を鑑賞し、制作への意欲をもつ。 【関心・意欲・態度】 (ワークシート)

